

日本気象学会 2015 年度秋季大会 出展・協賛企業・団体等一覧

今大会の開催にあたり，以下の企業・団体からご出展・ご協賛・ご協力を頂きました（2015年8月20日現在；50音順）．厚く御礼申し上げます．（*は会場内に併設されるブースにて展示を行う予定の企業・団体です．）

<出展・協賛>

株式会社ニューテック*

サイバネットシステム株式会社*

特定非営利活動法人 気象システム技術協会*

日本無線株式会社*

日立パワーソリューションズ*

三菱電機株式会社*

有限会社イーオーアール*

<協賛>

株式会社朝倉書店

全日本空輸株式会社

日本気象学会 2015 年度秋季大会

会期：2015 年 10 月 28 日（水）～30 日（金）

会場：京都テルサ 〒601-8047 京都市南区東九条下殿田町 7 0 番地
（新町通九条下ル 京都府民総合交流プラザ内）

<http://www.kyoto-tersa.or.jp/>

大会実行委員会担当機関：大阪管区気象台，京都大学，神戸大学，京都産業大学，理化学研究所，
総合地球環境学研究所，日本気象予報士会関西支部

大会委員長：上垣内 修（大阪管区気象台）

当日の会場への連絡先：大会実行委員会事務局（京都テルサ研修室，東館2階）
TEL：075-692-3400・FAX：075-692-3402（京都テルサ代表）
「日本気象学会秋季大会実行委員会」とご指名ください

会場案内図



京都テルサ

交通の案内：

- JR 京都駅（八条口西口）より南へ徒歩約15分
- 近鉄東寺駅より東へ徒歩約5分
- 地下鉄九条駅4番出口より西へ徒歩約5分
- 市バス九条車庫南へすぐ
- 名神京都南インターより国道1号北行き市内方面へ，九条通を東へ，九条新町交差点を南へ

大会行事予定

A会場 : テルサホール (西館1階) シンポジウム・授賞式会場: テルサホール (西館1階)
 B会場 : セミナー室 (東館2階) 受付: テルサホール前 (9:00 受付開始) (西館1階)
 C会場 : 中会議室 (東館2階) 大会事務局: 研修室 (東館2階)
 D会場 : 大会議室 (東館3階) 懇親会 : 大会議室 (東館3階)
 ポスター会場: テルサホール後方スペース
 西館2階展示スペース

() 内は講演数と講演番号

		A会場	B会場	C会場	D会場
10月28日 (水)	09:30～ 12:30	スペシャル・セッション 「里村雄彦先生追悼セッション: 非静力学数値モデルと熱帯モンスーン降水研究の発展のために」 (15, A101～A115)	気候システムⅠ (12, B101～B112)	観測手法 (15, C101～C115)	降水システムⅠ (16, D101～D116)
	13:30～ 17:00	スペシャル・セッション 「温室効果気体研究の観測・測定技術の進展による新たな展開」 (22, A151～A172)	気候システムⅡ (20, B151～B170)	中層大気 (13, C151～C163) 中高緯度大気 (5, C164～C168)	気象予報・データ同化 (20, D151～D170)
	17:00～ 18:00	ポスター・セッション (100, P101～P1a0)			
10月29日 (木)	09:05～ 12:00	降水システムⅡ (15, A201～A215)	気候システムⅢ (7, B201～B207) 気象教育 (3, B208～B210)	大気力学 (6, C201～C206) 大気放射 (6, C207～C212)	環境気象・大気境界層 (11, D201～D211)
	13:00～ 13:30	堀内賞・正野賞・山本賞・奨励賞授与			
	13:30～ 15:30	堀内賞・正野賞・山本賞受賞記念講演			
	15:40～ 17:55	シンポジウム「スーパーコンピューティングと気象学」 基調講演: 三好建正, 佐藤正樹, 斉藤和雄, 豊田英司, 石川 裕, 富田浩文			
	18:10～ 20:00	懇親会			
10月30日 (金)	09:30～ 11:30	熱帯大気・台風Ⅰ (11, A301～A311)	スペシャル・セッション 「熱帯・中高緯度, 成層圏・対流圏結合変動過程と異常気象の予測可能性」 (10, B301～B310)	スペシャル・セッション 「「あかつき」金星大気探査カウントダウン」 (16, C301～C316)	降水システムⅢ (11, D301～D311)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (101, P301～P3a1)			
	13:30～ 17:00	熱帯大気・台風Ⅱ (20, A351～A370)	スペシャル・セッション 「防災気象情報～情報をつくる・伝える・使う工夫～」 (20, B351～B370)	スペシャル・セッション 「気象予測・観測技術の再生可能エネルギー分野への応用」 (22, C351～C372)	物質循環 (17, D351～D367)

発表件数: 514件 (一般口頭発表208, ポスター201, スペシャル・セッション105)
 口頭発表の講演・質疑時間: 7分と2分

当大会予稿集に掲載された研究発表の文章・図表を複製あるいは翻訳して利用する場合には, 日本気象学会の文書による利用許諾を得た上で出所明示して利用しなければなりません。ただし著作者自身による利用の場合は, 利用許諾の申請は不要です。

本プログラムの記載内容に関する問い合わせは, 〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1 気象研究所予報研究部内 講演企画委員会 (e-mail: kouenkikaku2015a@mri-jma.go.jp) まで。

大会参加費・懇親会費

大会参加費

- 大会参加費は以下の表の通りです。

大会参加費		
種別	前納	当日
講演者 A	8,000 円	—
講演者 B	5,000 円	—
聴講者	3,000 円	4,000 円

- 講演者の種別：
講演者 A：研究機関・大学に所属する講演者（ただし、学部生・院生は除く）
講演者 B：講演者 A に該当しない講演者
- 講演件数が 2 件の場合も大会参加費は変わりません（講演件数による加算はありません）。
- シンポジウムのみに参加する場合は、参加費は無料です。

懇親会費

- 懇親会費は以下の表の通りです。

懇親会費		
種別	前納	当日
一般	5,000 円	6,000 円
学生	4,000 円	4,500 円

支払方法

- 講演者の参加費の支払い方法は前納のみとなっており、既に受付は締め切られています。
- 懇親会費及び聴講者の参加費を前納する場合は、大会ホームページにて 2015 年 8 月 25 日（火）までにお支払下さい（郵便振替の場合は 2015 年 8 月 18 日（火）まで）。それを過ぎた場合は当日払いとなります。

領収書

- 領収書は参加者本人の名義で、大会当日受付にて名札と一緒に手渡される予定です。
- 名義の変更が必要な場合には再発行が可能ですので、大会当日受付にてお申し出下さい。

その他

- 一旦支払われた参加費・懇親会費は返却いたしません。
- 参加費・懇親会費には会員・非会員の区別はありません。
- 非会員の方も規定の参加費・懇親会費をお支払い頂ければ大会・懇親会に会員と同様に参加することができます。

講演の方法

口頭発表（スペシャル・セッションを含む）

- 一般口頭発表の講演 1 件あたりの持ち時間は 9 分（講演 7 分・質疑 2 分）です。
- スペシャル・セッションの発表時間については世話人からの指示に従ってください。
- 講演には PC プロジェクターを使用できます。
- 講演にあたり、予め以下の点をご了承ください。
 - ✓ パソコンは各自で準備して下さい。会場にはプロジェクターおよび接続ケーブルのみを準備します。
 - ✓ セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。また接続が不安な場合は、セッション開始前に会場係に申し出て下さい。
 - ✓ 突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応をとることがあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようにお願いします。

ポスター発表

- 講演者はポスターに表題と著者名を明記して下さい。
- ポスター発表の一人当たり使用可能面積は、縦 140 cm×横 90 cm 程度となっています。
- ポスターの掲示には画鋏のみが使用できます。画鋏は会場に用意されています。
- ポスターの掲示可能時間は以下の通りです。会場の都合上時間厳守でお願いします。
 - ✓ 第 1 日の発表者は 10 月 28 日 09:00～18:00
 - ✓ 第 3 日の発表者は 10 月 30 日 09:00～17:00
- ポスター会場での機器の使用は、講演申し込み時に申し出ていたもの以外は原則として認められません。

保育施設の紹介について

大会実行委員会では、大会期間中の保育施設の紹介と、施設利用費用の一部補助を行います。紹介する保育施設と補助金額は下記の通りです。

保育施設：
「保育園 ホテルキッズ」
URL：<http://hotel-kids.jp/>
TEL：075-351-0052

補助金額：
保育に要した費用
(保育施設利用料+交通費上限1000円)の3分の2。

施設を利用される場合は、利用者が直接お申込みのうえ、9月30日（水）までに下記担当者までご連絡下さい。他の施設を利用される場合にも補助が適用できます。保育施設の利用をご検討されている方は、お気軽に担当者にお問い合わせください。

ださい。

連絡先：安富 奈津子（総合地球環境学研究所）
E-mail：yasutomi@chikyu.ac.jp
TEL：075-707-2412

シンポジウム「スーパーコンピューティングと気象学」

日時：大会第2日（10月29日〔木〕） 15:40～17:55
会場：京都テルサ テルサホール（大会A会場）
司会：三好 建正（理化学研究所）

※シンポジウムの聴講は無料です。一般の方も参加できます。

趣旨

計算機によるシミュレーションは、理論、実験に次ぐ第3の科学的手法とも言われ、気象学の発展に重要な役割を果たしています。我が国は大型計算機環境に恵まれ、1秒間に1京回（10ペタフロップス）の演算速度を世界に先駆けて実現したスーパーコンピュータ「京」も、気象学の最先端研究に役立てられています。これにより、実際の竜巻を再現する超高解像度気象シミュレーションや、全球を1キロメートル以下に区切った高精細の全球大気シミュレーション、従来より二桁大きい1万メンバーのアンサンブルシミュレーションなど、世界をあっと驚かせるような研究成果が出てきています。また、2020年には「京」の後継機であるポスト「京」スーパーコンピュータを稼働させるべく開発が進められています。このほか、第4の科学的手法とも言われるデータ集約型サイエンスが台頭し、ビッグデータを活用した新たな知の探求も始まっています。

今回のシンポジウムでは、スーパーコンピュータを用いた気象学の最先端研究、及び、将来展望について議論します。また、メニーコア、階層型構造など、スーパーコンピュータのアーキテクチャは複雑化する傾向があり、科学的発見のためにはこれを使いこなすことが重要です。このような高度な人材育成や、計算機科学者との連携についても考え、これからの気象学の発展のためのスーパーコンピューティングについて考えたいと思います。

基調講演

「趣旨説明：京、ビッグデータ、ポスト京へ」	三好 建正（理化学研究所）
「京による全球大気研究の最前線」	佐藤 正樹（東京大学）
「京によるメソ気象予測研究の最前線」	斉藤 和雄（気象研究所／海洋研究開発機構）
「ビッグデータ、スパコンを使いこなすためには」	豊田 英司（気象庁）
「将来のスパコン、気象学＝計算機科学連携」	石川 裕（理化学研究所）
「ポスト京に向けたモデリング、将来のスパコンと人材育成」	富田 浩文（理化学研究所）

講評

木本 昌秀（東京大学）

総合討論

スペシャル・セッションの概要紹介

里村雄彦先生追悼セッション：非静力学数値モデルと熱帯モンスーン降水研究の発展のために

日時：大会第1日（10月28日）09:30～12:30
場所：A会場

趣旨：京都大学教授でいらした里村雄彦先生が2014年3月3日に60歳で永眠されました。里村先生は、非静力学数値モデルの開発と数値実験によって急峻地形効果を研究されるとともに、非静力学数値モデル研究連絡会の発起人の一人としてその運営に尽力されました。また、アジアモ

ンスーンエネルギー・水循環観測研究計画（GAME）－熱帯計画、ならびにモンスーンアジア水文気候研究計画（MAHASRI）に主要メンバーの一人として参加され、とくに東南アジア域の降水システムに関する研究をされました。教育面では、学生自身が問題を発見し、解決方法を勉強しながら模索する習慣を身につけることを目指され、日本気象学会では、電子レター誌「SOLA」の立ち上げと編集委員長等で大きく貢献されました。この分科会では、先生が関わられた非静力学数値モデルの開発と利用、なら

びに熱帯モンスーン降水研究を中心とした発表を行い、先生の業績を偲びます。

世話人：重尚一（京都大学大学院理学研究科）、余田成男（京都大学大学院理学研究科）、向川均（京都大学防災研究所）、竹見哲也（京都大学防災研究所）、岩崎俊樹（東北大学大学院理学研究科）、沖大幹（東京大学生産研究所）、松本淳（首都大学東京）

温室効果気体研究の観測・測定技術の進展による新たな展開

日時：大会第1日（10月28日）13:30～17:00

場所：A会場

趣旨：温室効果気体の地球規模循環の解明は、将来の気候変動とそのフィードバック機構を精緻に予測するために不可欠である。大気中の二酸化炭素濃度の観測から始まった温室効果気体循環の研究は、その後、メタンなど多種類の気体に及び、面的には海洋や陸域生態系の観測へ、時間的にはアイスコア解析等の古環境にまで広がり、さらに同位体比や酸素窒素比等の関連物質観測など、幅広い分野で進められている。近年はレーザー分光法の活用やリモートセンシング法による計測の高度化、航空機、船舶、気球等の多様なプラットフォーム展開などによって観測の空白域が埋められつつある。このことから、観測データの統合化とその品質評価も重要な課題となり、標準スケールの技術開発が進んでいる。一方で、温室効果気体をトレーサーとする大気の輸送研究にも注目が集まっている。

本セッションはこれら最先端の観測手法や測定技術についての情報交換を行い、今後の研究の展望を議論し、分野間の連携を促進することを目的とする。従って、既存研究のレビューではなく、近年活用が進んだ観測技術や今後発展の期待される話題を歓迎する。さらに、モデルや関連研究からの要望や提言もいただきたい。

世話人：町田敏暢（国立環境研究所）、村山昌平（産業技術総合研究所）、森本真司（東北大学）、松枝秀和（気象研究所）、青木周司（東北大学）、藤谷徳之助（国立環境研究所）

熱帯・中高緯度、成層圏・対流圏結合変動過程と異常気象の予測可能性

日時：大会第3日（10月30日）09:30～11:30

場所：B会場

趣旨：近年、変分法やアンサンブル手法などデータ同化技術の高度化や、数値予報モデルの高精度・高解像度化が進み、数値予報の精度が向上している。同時に、西岸境界流域とその続流域における大気海洋相互作用や成層圏・対流圏鉛直結合に関する研究が進展し、異常気象・異常天候のメカニズムに関する新たな知見が得られている。

その結果、例えば、年々変動に伴う熱帯の海面水温や北極海の海水分布に対する大気の応答としての特徴的な天候や、北半球環状モードの成層圏から対流圏への下方伝播などから、従来考えられてきた予測可能性限界を超える糸口が見いだされつつある。また、熱帯季節内振動や極域の寒気流出を契機とした熱帯低気圧や温帯低気圧の急発達のような顕著現象についても、予測精度の向上や予測可能期間の延長に期待が高まっている。

このセッションでは、異常気象に対する熱帯や中高緯度からの影響や、中緯度の大気海洋相互作用、成層圏・対流圏結合現象のメカニズムに関する最新の研究成果を報告し、社会的関心の高い中期予報や季節予報への応用や長期変動、将来変化について議論する。

世話人：木本昌秀（東大気海洋研）、中村尚（東大先端研）、向川均（京大防災研）、中澤哲夫（S2S国際調整事務局）、榎本剛（京大防災研/JAMSTECアプリケーションラボ）

「あかつき」金星大気探査カウントダウン

日時：大会第3日（10月30日）09:30～11:30

場所：C会場

趣旨：我が国の惑星大気探査の第一歩となる金星気象衛星あかつきは、2010年5月に打ち上げられ同年12月に金星周回軌道に入ることに失敗し、その後、太陽を周回していたが、本年12月7日に改めて金星周回軌道に入る運びとなった。予定より5年遅れ、また当初の計画と異なる軌道からの観測となるが、年明けから本格的な金星大気探査が開始される予定である。

当セッションでは、招待講演を中心にして、「あかつき」の金星大気探査の新たな計画について紹介するとともに、この5年間に Venus Express 探査機などによる観測や理論研究により得られた成果、およびその経験を踏まえた「あかつき」のデータ処理・科学研究の計画について議論し、会員諸氏に関連研究への参加を呼びかける。あわせて、金星その他の惑星大気に関する一般講演も募集する。

世話人：高木征弘（京都産業大学理学部）、今村剛（JAXA宇宙科学研究所）、松田佳久（東京学芸大学自然科学系）

防災気象情報～情報をつくる・伝える・使う工夫～

日時：大会第3日（10月30日）13:30～17:00

場所：B会場

趣旨：気象情報は、事象を定性的・定量的表現で伝える形態として運用されるのが通常である。

また、一定のリードタイムを確保し、事象の危険性を具体的にイメージさせ、防災・減災を目的とする意思決定を促すのが気象庁からの警報・注意報、そして自治体からの避難勧告・避難指示等の役割であろう。

だが実際には防災気象情報を受け取っても避難行動に直結しない事例は多い。実際の避難行動は自助による行動が最も多いが、身近な人や施設管理者からの呼びかけ、市町村の避難勧告等が避難行動のトリガーとなる。

このように、防災気象情報に人間の心理的な行動特性は大きく関係しているため、これらの点も踏まえて、情報の作成、伝達、活用の工夫や、技術シーズの創出などについて、広くアイディアを募って議論したい。

世話人：岩田修（日本気象予報士会）、難波良彰（日本気象予報士会）、川邊昭治（日本気象予報士会）、土井修二（日本気象予報士会）、鈴木浩文（日本気象予報士会）、弘中秀治（日本気象予報士会）、荒川知子（日本気象予報士会）、岡留健二（日本気象予報士会）

気象予測・観測技術の再生可能エネルギー分野への応用

日時：大会第3日（10月30日）13:30～17:00

場所：C会場

趣旨：近年、固定価格買取制度（FIT）の導入以降、太陽光発電や風力発電システムなどの再生可能エネルギーの導入量には目覚ましいものがあります。一方、これらの発電出力は天候等により左右されるため、時間的、空間的にも大きく変動します。このため、再生可能エネルギーを含めた電力の安定供給、電力の需給バランスの安定化には、太陽光や風力の予測、把握技術は不可欠な技術要素となりつつあります。また、気象の分野で技術開発された様々な予測・観測技術を用いることは、再生可能電源の系統への接続、電力系統における火力発電所等の運転計画の効率化（燃料費などのコスト低減）につながり、電力系統の運用コスト削減に貢献し、系統安定性へ大きく寄与できる可能性を秘めています。

このセッションでは、気象予測や気象観測技術が電力シ

ステム分野においてどのように利用、応用されているかの現状や技術開発の状況を把握するとともに、今後、電力システムに有効に活用されていくための議論の場にしたいと思えます。研究機関から民間の気象会社、電力システム分野など様々な角度からのご発表、意見交換を期待致します。

世話人：大竹秀明（産業技術総合研究所）、宇野史睦（産業技術総合研究所）、嶋田進（産業技術総合研究所）、宇田川佑介（東京大学）、中島孝（東海大学）、滝谷克幸（一般財団法人 日本気象協会）、早崎宣之（伊藤忠テクノソリューションズ株式会社）

研究会のお知らせ

大会期間中とその前後に以下の研究会が予定されています。興味のある方はご自由にご参加下さい。

第44回メソ気象研究会

日時：2015年10月27日（火）大会前日 13:30~17:30

場所：キャンパスプラザ京都、第3講義室（JR京都駅そば）

（京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町939）

テーマ：「最強の熱帯低気圧 Haiyan と Pam」

内容：今回のメソ気象研究会は、2013年にフィリピンに上陸し大災害をもたらした台風Haiyanと2015年に南太平洋のパヌアツに甚大な被害をもたらしたサイクロンPamに焦点をあてた。これらは記録に残る最強の低緯度の熱帯低気圧であるが、日本に災害をもたらす台風と異なり日本では情報が少ない。しかしながら、低緯度の熱帯低気圧を知ること、地上の最強の熱帯低気圧を知るという点で重要であるだけでなく、将来の温暖化気候における台風を知ることにもつながるといって重要である。今回は最強の熱帯低気圧の“実態を知る”ことにテーマをしぼり、多様な分野の方々に講演をお願いした。

気象学に限らず地球科学一般に、実態を知る上で現地をみるということは最も重要である。そこでフィリピンやパヌアツに現地調査に行かれた森氏（京大防災研）と島川氏（NHK）に、防災の観点から災害の実態を伝えるという視点から話題提供をお願いした。一方でデータから最強の台風の実態を知ること重要である。台風のデータといえば、気象界で知らない人はいない「デジタル台風」を開発・運営をされている北本氏（情報研）から、熱帯低気圧について情報をいかに読み解くかという観点からお話しいただく。また、「実態を知る」ということはシミュレーションを排除しているわけではない。全球あるいは領域の数値モデルを用いて、観測やデータ解析だけでは得られない情報を取り出すこともまさに実態を知ることになる。そのような視点で中野氏（JAMSTEC）と吉岡氏（名大地球水循環）に、それぞれのモデルから分かる“実態”についてお話しいただくことをお願いした。

プログラム：

趣旨説明：坪木和久（名古屋大学地球水循環研究センター）

講演：

1. 森信人（京都大学防災研究所）

「台風 Haiyan とサイクロン Pam による沿岸災害の調査と解析」

2. 島川英介（NHK 社会部）

「現地取材から見えてきた Haiyan と Pam の実像」

3. 北本朝展（国立情報学研究所）

「デジタル台風：熱帯低気圧の実感に向けたデータの文脈化」

4. 吉岡真由美（名古屋大学地球水循環研究センター）

「サイクロン Pam の高解像度シミュレーション」

5. 中野満寿男（国立研究開発法人海洋研究開発機構）

「全球非静力学モデルで迫る Pam の”実態”」

コメンテーター：小山亮（気象研究所）

「台風 Haiyan とサイクロン Pam の強度推定について」

世話人：坪木和久（名大地球水循環）、加藤輝之（気象研究所）、小倉義光（東大大気海洋研）

連絡先：坪木和久（名古屋大学地球水循環研究センター）

E-mail：tsuboki@rain.hyarc.nagoya-u.ac.jp

「極域・寒冷域」及び「観測システム・予測可能性」合同研究連絡会

日時：2015年10月28日（水）（大会第1日）セッション終了後2時間程度

場所：B会場

テーマ：「極域予測可能性研究に向けた現状と展望」

趣旨：2週間先までの社会的・経済的に影響の大きな気象の予報精度向上を目指した国際研究プログラム THE Observing system Research and Predictability Experiment (THORPEX) は、ポーラーロウの予測精度向上など極域気象に焦点を充てた IPY-THORPEX としても貢献してきました。2012年にはWMOによって、IPY-THORPEX

を発展的に受け継ぐ Polar Prediction Project (PPP)が 10 年間の WWRP のプロジェクトとして設置されています。PPP 期間中の 2017 年から 2019 年には極域予測年 (YOPP : Year Of Polar Prediction) が予定されており、極域における観測研究と予測可能性研究の発展的融合が目前に迫っています。そこで、今回は「極域・寒冷域研究連絡会」と「観測システム・予測可能性研究連絡会」とが合同で研究連絡会を行います。3名の予測可能性研究の専門家をお招きし、これまでの THORPEX の日本での活動を振り返り、利用可能なデータ (TIGGE データや S2S データなど)、解析手法、及びその応用についてご講演頂き、極域予測可能性研究の現状と今後の展望について議論を交わす機会としたいと思います。

プログラム :

1. 「趣旨説明」
猪上淳 (国立極地研究所/海洋研究開発機構)
2. 「TIGGE および S2S データを使った予測可能性研究」
松枝未遠 (筑波大学/オックスフォード大学)
3. 「アンサンブル予報を用いた簡易予報感度解析」
榎本剛 (京大防災研/JAMSTEC APL)
4. 「日本付近で発達する爆弾低気圧の予測可能性」
吉田聡 (海洋研究開発機構)

連絡先 : 西井和晃 (東京大学先端科学技術研究センター)

E-mail : nishii@atmos.rcast.u-tokyo.ac.jp

統合的陸域圏研究連絡会

日時 : 2015 年 10 月 28 日 (水) (大会第 1 日) 18:00~20:00

場所 : C 会場

テーマ : 「陸域関連モデルのデータ同化」

内容 : 従来、陸域関連モデルの調整は経験的に行われることが少なくなかったが、近年、大気・海洋モデルで先行して発展したデータ同化を応用し、陸域圏のモデルにおけるパラメータ値を統計的に制約していく事例が徐々に増えてきており、この分野のモデルの性能向上へのさらなる貢献が期待されている。今回研究会では、陸域生態系 (植生+土壌) モデル、陸面・水文モデルについて二人の講演者を迎え、この分野のデータ同化応用の現状と課題、有効性、可能性を議論したい。(タイトルや講演者は変更になる場合があります)

プログラム :

- 1) 個体ベースモデル SEIB-DGVM を用いたデータ同化 : その課題と展望
荒木田葉月 (理化学研究所)
- 2) マイクロ波による衛星水循環観測データを利用した陸域データ同化システム
澤田洋平 (東大)
- 3) 総合討論
コメンテーター : 加藤知道 (北大)

世話人 : 伊勢武史 (京大), 市井和仁 (JAMSTEC), 大石龍太 (極地研/東大 AORI), 熊谷朝臣 (名大), 近藤雅征 (JAMSTEC), 佐藤 永 (JAMSTEC), 立入 郁 (JAMSTEC), 羽島知洋 (JAMSTEC)

連絡先 : 立入 郁 (JAMSTEC)

E-mail : tachiiri@jamstec.go.jp

惑星大気研究連絡会

日時 : 2015 年 10 月 31 日 (土) 09:00-16:00 (予定)

場所 : 京都産業大学むすびわざ館 (四条大宮駅徒歩7分)

〒600-8533 京都府京都市下京区中堂寺命婦町1-10

<http://www.kyoto-su.ac.jp/outline/shisetsu/musubiwaza/>

(上賀茂キャンパスではありませんので、ご注意ください)

内容 : 12月上旬に「あかつき」が金星周回軌道に再投入される運びとなりました。当初の計画とは異なる軌道からの観測となりますが、年明けから本格的な金星大気探査が開始される予定です。そこで、今回の研究連絡会では、Venus Express や地上望遠鏡による観測や理論研究によって得られた最近の成果を持ち寄り、金星大気探査の新たな計画について議論したいと思います。研究発表など、参加に興味のある方はご連絡をお願いします。詳細は決まり次第 ymn et 等でご案内します。以下の Web ページをご覧ください。

<http://wtk.gfd-dennou.org/>

なお、前日の 10/30 (金) 午前には、気象学会秋季大会において、スペシャルセッション『「あかつき」金星大気探査カウントダウン』が開催されます。こちらにもぜひご参加ください。よろしく願いいたします。 <http://msj.visitors.jp/>

連絡先 : 高木 征弘 (京都産業大学理学部)

E-mail : wtk-staff@gfd-dennou.org

2016 年度春季大会の予告

2016 年度春季大会は、2016 年 5 月 18 日 (水) ~ 21 日 (土) に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催される予定です。大会告示は「天気」12月号に掲載予定です。なお、春季大会の講演申し込み締め切りは 2016 年 2 月頃となる予定です。